

私たち島原翔南高校課題研究G班は、南島原市の活性化のために、「子育てしやすいまちづくり」をテーマに、少子化問題に取り組むことにしました。研究を進めるうちに、南島原市は他の自治体に劣らないくらい子育て支援制度が整っていることがわかりました。一方、南島原市は働く女性が多いこと、合計特殊出生率が高いことがわかり、多くの職場に子育てと仕事の両立がしやすいことが求められているのではないかと思います。今回、南島原市内で子育てと仕事を両立している女性を紹介することで、多くの女性が南島原市で子育てをしたいと思ってくればという思いを込めてこのパンフレットを作成しました。ここで紹介した以外にもたくさんの方が頑張っていると思います。そのような方々をサポートする職場がもっと増えることも期待します。



みそ五郎公園



加津佐いるかウォッチング



浜んこら祭り



南島原市で、子育てと仕事の両立を

めざしませんか？



南島原で、「Nぴか」に認証されている企業で、子育てと仕事の両立を頑張っている女性にインタビューしました。



長崎県誰もが働きやすい職場づくり実践企業認証制度『Nぴか』とは？

長崎県誰もが働きやすい職場づくり実践企業認定制度(愛称:ながさきキラキラ企業)略称「Nぴか」

年齢・性別に関係なく、誰もが働きやすい環境づくりに積極的に取り組む県内企業を、県が優良企業として認証する制度です。「仕事と育児・家庭の両立」「働き方改革」「女性の活躍推進・男女共同参画」の3分野50項目の得点が50%以上で、得点に応じて「一つ星」から「五つ星」を取得する5段階の認証制度となっています。

社会福祉法人 山陰会 普賢学園

T. Hさん



産休、育休をとったのは前に働いていた職場です。1年間の休暇を希望していましたが、6か月で職場復帰しなければならず、復帰前から不安で、その後もとてもきつかったです。それでもどうか家庭と仕事を両立させていましたが、もっと子どもとの時間を増やしたい、子供と一緒にいられる時間は今しかない！と思い転職を決意しました。転職をしてよかった！今の職場は休みがとりやすい雰囲気であり、「すみません・・・」と肩身の狭い思いをする必要がありません。むしろ周りの職員が「今日は早く帰らなくていいの？」と帰宅時間など気遣ってくれるくらいです。子どもの学校行事にも参加できます。前よりも心にゆとりができ、子どもにあたることもなくなりました。もちろん家庭と仕事の両立には夫の協力も必要不可欠です。夫はほとんどのことはできます。子どもの生活時間に合わせて9時消灯を目指し、2人で協力しています。南島原市に期待することは、もっと学童保育が増えるといいなということです。子どもが小学校に上がっても仕事を続けられるように。

株式会社 ミカド観光センター

森藤 吹さん



産休と、1年間の育休を経て仕事に復帰しました。復職の際はいろいろと不安もありましたが、それ以上にこの職場で働きたい理由がたくさんあるので辞めたくはありません。そのためには仕事の仕方も工夫が必要です。急に仕事を休むこともあるので、その時にお願する人のスケジュールまで考えて仕事を入れるようになりました。家での生活においても、作り置きをしたり、すき間時間に家事を済ませたりなど、時間の使い方も工夫できるようになりました。また、子育てをするようになって、お客様に対して丁寧にわかりやすく話せるようになりました。これは子どもがいなかったときには気づかなかったことです。ここは女性が多い職場で、自分の他にも子育て中の人があります。休みを取るのに周りの目を気にしなくてもよく、お互いにフォローし合える雰囲気です。私は子ども中心の生活にするために、9時～18時の勤務時間を、17時までにしてもらいました。今は15時で帰れるようにしてもらっています。さらに職場に望むことができたら、職場内に保育施設を作ってほしいですね。

株式会社 松尾青果

松尾 麗香さん



産休と、1年3か月の育休を経て復帰しました。復帰するときは仕事内容や体調面で不安もありましたが、周りのサポートを受けながら仕事を続けてきました。仕事は、もともと8時から5時までの勤務時間ですが、復帰後は少し遅めに出勤するようにしました。事務職は女性が多く、子育てについても理解が得られやすい環境です。保育園の行事や、検診、予防接種などの時には早退したり、その時間だけ仕事を抜けたりするなど、臨機応変に対応してもらえる職場です。現場で働く男性社員も子どものために休みを取る人が多いです。家では子ども中心の生活で、無理をしすぎないようにある程度のところで納得するようにし、家族の協力を得ながら時間の使い方も工夫をするようになりました。育休中は、市の子育て支援サービス等を積極的に利用し、「はじめのいっぽ」や図書館でのおはなし会など親子で楽しめる講座に参加しました。今後もこのような支援サービスを続けてもらうとともに、できれば平日の昼間だけではなく、休日にも親子で参加できるようなものが増えればいいですね。